

所属・氏名（看護学部 看護学科 氏名：坂村 八恵）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 「看護専門職の人生を育むもの」シリーズ 仕事と誇り 誇れる仕事の意味	単著	2009年6月	ふくろう出版 岡山	担当部分の概要:「歴史から顧みる看護師としての誇り」と題して、北清事変期の広島陸軍予備病院における医療と看護を取り上げ、先人たちの偉業を省みて、人の命を預かる専門職業人としての誇りを再認識することが大切であることをまとめている。(担当ページ:pp. 77～81)
2 (著書) 「看護専門職の人生を育むもの」シリーズ 時と出会い 時を重ね、命あるものとのふれあいと通じて今を生きる	単著	2008年3月	ふくろう出版 岡山	担当部分の概要:「脳卒中リハビリ歩行三万キロ踏破までの出会いと道のり」と題して、脳卒中後の後遺症と障害に向き合い、8年がかりで歩行3万キロ踏破を実現させたT先生と、それを陰ながら支えてきた人々の出会いについてまとめている。(担当ページ:pp. 50～56)
3 (学術論文) 北清事変期の広島陸軍予備病院における医療と看護	共著	2010年3月	広島国際大学看護学ジャーナル 第7巻 第1号 15-25	論文全体の概要:本研究はわが国の看護黎明期における北清事変において、戦争が医療に与える影響について具体的に解明することを目的とした。 本研究では今まで十分に精査されなかった『人馬衛生業務』などの資料を用いた。結果、日清戦争期に比べて全体として治癒率が向上し、外傷の診断におけるX線の使用効果を確認することができた。また、この戦争において日本赤十字社は全国から救護員を派遣できる体制を確立し、外国人傷病兵を厚遇したことにより国際的な評価を受けることができた。しかし、日本人に対する看護の状況は良好とはいえず、救護報告書にも看護状況の改善提言についての記述はなかった。このように、北清事変期には国家主導による医療・看護体制の構築は急速な発展を遂げたが、また課題も多く残ったことがわかった。 (当該論文のページ数:11頁) (当該論文の著者名:岡本裕子、 <u>坂村八恵</u> 、隅田寛、千田武志) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) 新卒看護師の専門職者としての自立体験－8名の大卒看護師へのインタビューを通して《筆頭論文》	共著	2008年3月	広島国際大学看護学ジャーナル 第6巻 第1号 47-56	論文全体の概要:本研究は、新卒看護師が専門的な関わりができた体験や成長したと思われる体験に着目し、どのような自立体験や、職業的アイデンティティが育まれているかを明らかにした。対象者は大学卒業後1年を経過した看護師8名で、半構成的インタビューを行い質的帰納的に分析した。 新卒看護師は先輩看護師との関係の中で学んだ体験をもとに、専門職としての看護援助を積み重ね、自立への過程を歩んでいた。また、看護の責任の重さ・やりがいを感じた体験等から、職業的アイデンティティの形成が伺えた。 (当該論文のページ数:10頁) (当該論文の著者名: <u>坂村八恵</u> 、岡本裕子、坪井敬子、秋山智、石井俊行) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能